研究主題

目的に応じて必要な情報を見付け、根拠を明確にして表現する児童の育成

― 系統的・対話的な学びを取り入れた、国語科の授業づくりを通して ―

目指す児童像

目的に応じて必要な情報を見付け、分かりやすくまとめることができる子

系統的な学び

精査・解釈　考えの形成

各ブロックの目指す児童像

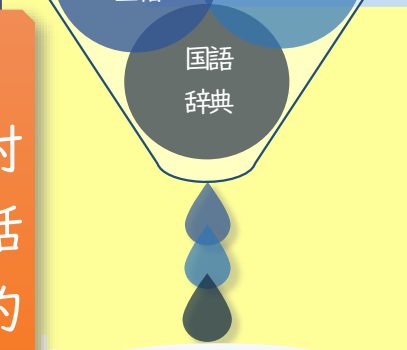
低学年	中学年	高学年
○ 文章の中の大事な言葉や文を見付けることのできる子 ○ 読み取ったことと自分の体験を結びつけて、感想をもつことができる子	○ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる子 ○ 読み取ったことを基に、感想や自分の考えをもつこと	○ 目的に応じて、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる子 ○ 読み取ったことを基に、自分の考えを分かりやすくまとめることができる 子

授業の中での具体的な姿

・ 大事な言葉や文に線を引くことができる。 ・ 読んで分かったことと、自分の体験を比べながら読むことができる。	・ 中心となる語や文を確かめることができる。 ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。	・図表やグラフ、挿絵、写真などが、文章のどの部分と結び付くのか考えながら読むことができる。 ・自分の知識や学習した内容と結び付けて、自分の考えを分かりやすくまとめることができる。

児童の活動

語彙力向上



知識・技能　思考・判断・表現　学びに向かう力・人間性

対話的な学び

書き手との対話

○共通点・相違点
○教材文の活用
・分かったことや考えたことを述べる。
・一部の引用
・比較

他者との対話

○発表・説明
○比較・共有
○共通点・相違点

自分との対話

○考えの再構築
○考えを深め、広げる

基礎・基本の定着

基本的な授業の流れ

つかむ

教師

試行錯誤

伝え合う

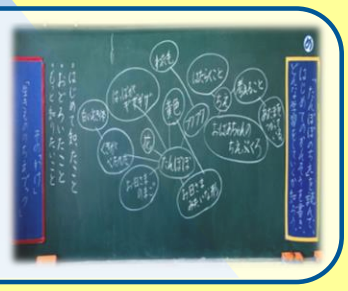
児童 ⟷ 児童

まとめる

振り返る

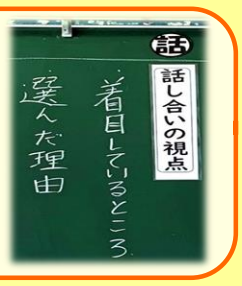
教師の手立て

①児童が取り組みたいと考える学習課題の設定



②学習形態を工夫して、多様な集団の学びと個の学びの場面を設定
・ペア学習、グループ学習

③効果的な対話的活動を生かした表現活動の工夫
・「話し合いの視点」の可視化
・「話し合いの手引き」の活用



④めあてとまとめとの整合性を図る

⑤振り返りの視点の焦点化
・対話的活動を通して、自分の考えが深まったり、広がったりしたこと。
・対話的活動を通して、分かったことや身に付いたこと。

児童の実態

▼目的に応じて必要な情報を見付ける力は身に付いているが、複数の情報を適切に使うことができていない。（R３学診）
▼話し合う活動を通じて、伝えたいことや聞きたいことの中心を捉えることはできるが、考えを深めたり、広げたりすることが十分ではない。（R４学調）